

文部科学大臣 川端達夫様

「もんじゅ」ナトリウム漏えい検出器故障の原因究明と 検証なく運転再開を急ぐことへの抗議文

日本原子力研究開発機構は2010年4月26日23時59分に高速増殖原型炉もんじゅの2次系のナトリウム漏えい検出器の故障が発生し、約5時間半後にナトリウム漏えい監視機能が回復した発表しました。この間は、ナトリウム漏えい監視ができない状態でした。

ナトリウム漏えい検出器は「もんじゅ」の重要機器です。故障した検出器の部品は昨年5月に交換したばかりです。文部科学省は日本原子力研究開発機構に対し1年間で故障するような部品なのか、故障の原因究明と1年前の交換に問題はなかったのかなど、検証させるすることが最優先です。

ところが文部科学省は、日本原子力研究開発機構の対応が早く、機器の交換で機能は正常に戻ったことだけで運転再開を福井県に求めたことは、故障についての国の説明責任と日本原子力研究開発機構の説明責任や原因究明に蓋をする行為です。

岐阜県議会は本年3月25日に「「もんじゅ」の安全に関する積極的な情報提供を求める意見書」を全会一致で可決しました。

意見書には、「多くの国民には知見がない高速増殖炉であること、一たび事故が起これば甚大な被害が発生すること」「安全性に対する不安が完全には払拭できていないことから、耐震を含めた施設・設備の安全性を分かりやすい形で公表し、関係者のみならず、広く国民の理解、とりわけ周辺自治体を含めた住民の理解促進に努めることが、運転再開を円滑に進めるためには必要である」と指摘しています。

また、「原子力施設等の防災対策」によれば、本県は事故の影響を直接受けず、防災対策を重点的に充実すべき地域の範囲には含まれていないが、年間の大半が「もんじゅ」の風下となる状況から、万が一事故が起こった場合には、汚染物質が流れ込むのではないかと多くの県民は、防災上の不安を感じている。

よって、国におかれては、「もんじゅ」の安全性について、積極的に、かつ、住民が理解しやすい方法で提供し、**誰もがその安全性に疑念を抱くことなく、安心して暮らせるようにすることを求め**ています。

「もんじゅ」の風下であるという位置的關係に由来する岐阜県民の不安を重く受け止めた岐阜県議会の意見書を無視し、原因究明と説明責任を果たさない文部科学大臣の姿勢に、私たちは強く強く抗議します。

以上

2010年4月28日

放射能のゴミはいらない！市民ネット・岐阜
代表 兼松秀代